

令和2年6月 第1回議会改革活性化推進特別委員会

令和2年6月16日(火)

○議事日程

(1) 正副委員長の互選について

○出席委員 (10名)

1番 川上 絹子 君	2番 向井 孝一 君
3番 山崎 仁 君	4番 小川 ひとみ 君
5番 日置 紳一 君	6番 内ヶ島 祐一 君
7番 上村 忠 君	8番 岸 徹也 君
10番 村上 忠弘 君	11番 芳賀 芳夫 君
(議長 村瀬 廣 君)	

○欠席委員 (1名)

9番 徳田 栄邦 君

○出席事務局職員

議会事務局長	伊藤 靖徳 君
議会事務局主事	五十嵐 陽基 君

開議 14時55分

○議会事務局長（伊藤靖徳君） それでは、第1回の特別委員会を始めさせていただきます。本特別委員会は、議長を除く11名で構成される委員会で、本日が第1回目の開催となりますので、委員長が決まるまでの間、委員会条例第8条第2項の規定により、出席委員の中で年長の委員が、互選に関する職務を行うこととなっておりますことから、年長委員の芳賀委員に進行をお願いいたします。

◎開会の宣言

○年長委員（芳賀芳夫君） 芳賀でございます。

委員会条例第8条第2項の規定に基づき、委員長の互選が終わるまでの間、進行させていただきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

徳田委員により、欠席の届け出があります。

只今の出席委員は10名で、定足数に達しておりますので、「第1回議会改革活性化推進特別委員会」を開会いたします。

◎議題1

○年長委員（芳賀芳夫君） これより議事に入ります。

議題1、「正副委員長の互選について」を議題といたします。

互選の方法については、11日に開催された議会運営委員会で議運委員による選考委員会で選考する事で良いという事で決定をしておりますが、皆様のご意見を伺います。

（「選考委員により選考」）の声あり

○年長委員（芳賀芳夫君） 了解を得ましたので、日置委員、山崎委員、村上委員、岸委員の4名で正副委員長の選任をお願いいたします。暫時休憩をいたします。

休憩 14：58

開議 15：51

○年長委員（芳賀芳夫君） 休憩を解き、会議を再開いたします。

選考委員会の結果をご報告願います。日置君。

○5番（日置紳一君） 議会改革活性化推進特別委員会の正副委員長の選考委員会を開かせて頂きました。年長という事で代表選考委員に選任されました。その結果、次のようになりましたので報告いたします。委員長に芳賀委員、副委員長に村上委員を推薦いたします。

○年長委員（芳賀芳夫君） それでは只今報告がございました。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

- 年長委員（芳賀芳夫君） それでは、私の方から発言よろしいですか。私は前回も特別委員会の委員長をやらせて頂きました。私は立場上、皆様もご承知かと思いますが、この件については、辞退を申し上げたいと思います。前回の特別委員会でも不手際がございまして、ご迷惑をお掛けした事についても責任を感じておりますし、時間をかけて選考して頂き申し訳ないのですが、再度選考をして頂ければと思います。山崎君。
- 3番（山崎 仁君） この特別委員会を設置するにあたり、議長が議運にお諮りをして、議運の中で設置が決定されたと。議運の中では全会一致で設置をします。参与の立場である正副議長も出席をしており、設置を決定したわけですよ。選考委員でやる事についても議運の中で決定をした。これに異論は無かった。選考委員を誰にするかといった時に、議運の中で議運のメンバーがやる事に決定をした。今、本会議で決定をして、休憩をして正副委員長の互選に入るのも手続きの上だ。間違いの無い手続きを進めてきている。その中で、前回何かあったようなお話があったが、良くまとめて頂いて、請願者の方にも的確なアドバイスをしたと思うんですよ。前は失敗があったからとかではなくて、今回は皆様で芳賀委員長と村上副委員長を推薦してここにきているわけだから、これが狂ってしまったら全部が狂ってしまう。議長はどうですか。
- 議長（村瀬 廣君） 選考委員会で1時間以上かけて協議をした事を踏まえれば、副議長として色々な考えがあると思いますが、ここは頑張っけて受けて頂きたいと思います。
- 年長委員（芳賀芳夫君） 私は副議長として選出されたわけですがけれども、副議長の立場として、権威を行使する立場であると理解しております。そういう事では、私は特別委員会に妥当性があるのかという疑念を持っております。受けられないとなると皆様でもう一度決して頂ければと思います。私はそれに従います。もしそうでなければ、自分で判断をしたいと思います。
- 3番（山崎 仁君） 議長が特別委員会の設置をしたのは、議長を除く全員で構成をする委員会だよ。議長を除く全議員によるものだから、副議長や常任委員長、その他の委員長のポストも関係なく、議員として参加する事で理解をしているが、それで良いんだよ。
- 議長（村瀬 廣君） その通りです。
- 年長委員（芳賀芳夫君） 私は12年間やってきましたが、委員については、それぞれの所管で取り扱いをする事で進めてきたと思います。私も前は副委員長という事で、山崎委員長には大変なご苦勞をお掛けしたと思います。今回の条例改正についても、熟知した方ではないと中々難しいのかなと思っております。大変だと思いますが、再度その辺も含めて、皆様で協議をして頂ければと思います。私は受ける事にはいたしません。
- 2番（向井孝一君） 長時間かけて審議をした経過があって、芳賀さんの指名になったわけだけれども、芳賀さんの気持ちも分からないわけでは無いんだよ。基本条例に関わっているのは、この中で山崎さん、徳田さん、議長くらいしかいないんだよ。その事を考えると私は徳田さんが委員長で良いのではと思うが。
- 3番（山崎 仁君） ここに居ない人をお願いをするの。

- 2番(向井孝一君) 仕方が無いでしょ。内容まで審議をするわけでは無いんだから。
- 3番(山崎 仁君) 選考委員に任せて、時間をかけて決めて、こっちに持ってきて、それがダメになる話になったら、これが先例になって選考委員会は出来なくなるよ。
- 2番(向井孝一君) しかしながら、本人は固辞をしているわけだから。その気持ちも理解をして、議運の委員長にやってもらった方が良いんじゃないの。
- 議長(村瀬 廣君) 今、向井委員から委員長に徳田さんというお話がありましたが、本人はここにいませんよね。ここで決めて、その事を後で私は受けませんと言われれば、大変な事になりますよ。本人が居ない中で、欠席裁判みたいに決めるのは、出来ないと思いますよ。やはり本人に承諾を得られるようにやらなければ。
- 年長委員(芳賀芳夫君) 向井委員からもお話がありました。そういう事を含めて、もしここで決定を出来るのであれば、本人に連絡、承諾も必要になってくるのではと思います。その辺についてはいかがでしょうか。選考委員の皆様には長時間の間、大変ご苦勞をおかけいたしました。私の意思は変わりません。条例制定時のお話も向井さんからございました。今までの慣例では、議運の委員長が所管という事でやってきました。今日は欠席ではございますけれども、皆様の意見がそうであれば、本人に連絡を取るのはいかがでしょう。選考委員の皆様には、長時間やった事に感謝をいたします。
- 10番(村上忠弘君) 他の人の意見を聞いたら。
- 2番(向井孝一君) 選考委員の人は発言をしづらいただろうね。選考委員に選ばれていない人の意見を聞いてみて。
- 年長委員(芳賀芳夫君) 只今、向井委員からもありましたが、選考委員以外の人から意見を頂きます。いかがでしょうか。内ヶ島委員。
- 6番(内ヶ島祐一君) 選考委員で決めるという事で、議運の委員が集まって長時間かけて選考をして頂きました。芳賀委員もお断りをしましたが、また選考をやり直すとなると、それがまた引き金となって大変な事になると思います。やはり芳賀委員に引き受けて頂きたいと思います。
- 年長委員(芳賀芳夫君) 川上君。
- 1番(川上絹子君) 長時間をかけて選考委員で決めたという事では、それぞれ事情があったと思うが、委員以外の副議長の芳賀さんがあつたという事で、意見が合わなかったのかなど。私はこれから長い目でみて、徳田さんが委員長でも良いんですけども、今体調を崩させているので、いつ治るかは分からないのですが。1回目、2回目と山崎さんがやってきたので、3回目も山崎さんが委員長で良いのかなどと思いますが。山崎さんは長い事やってきたので、仕切ってもらったらスムーズに行くと思いますが。
- 年長委員(芳賀芳夫君) 小川君。
- 4番(小川ひとみ君) 芳賀さんが固辞する理由が副議長という立場であれば、私その辺は分かりませんがあれだと思いますし、以前上手く出来なかったという事をお話されましたけれども、私としては皆様の意見を良く聞いて、まとめて下さり、分かりやすかった

と思いますので、芳賀さんにやってほしいと思いますが、副議長という立場でどうなのと問われるのであれば、他の方をお願いをしなければならないのかなど。

○年長委員（芳賀芳夫君） 上村君。

○7番（上村 忠君） 選ばれるメンバーの人選の中に徳田さんが入っていないというのは、今この場に居ないという事ですけども、選考委員の中で僕ら皆も居ない中で決まったわけですよ。徳田さんが1か月も2か月も入院をしなければならない状況であれば、最初から外すのは、有り得るかもしれませんが、議運のメンバーで決めたという事であれば、議運のメンバーに入っていない人の意見を入れていないわけですから、欠席裁判という事であれば、居ない中で決まったという事になりますので、芳賀副議長が納得出来ないというのと、徳田さんが居ないから受けられないという事は、同じのような気がする。僕としては、どなたがなっても出来るという言い方は変ですけども、そういう意味では、誰が良くてというわけでは無く、選ぶ段階で今日居ないからといって候補から抜くという事であれば、それはどうなのというのが、今思う率直な意見です。

○6番（内ヶ島祐一君） 今、委員長の決め方をどうしますかといった時に、選考委員で決めますというふうになったわけですよ。その中で時間をかけて協議をしたなら、やはり引き受けて頂きたいし、もし断る事情があるのなら先に言っとかないと、決まった後に断るのは無理なのかなど。

○年長委員（芳賀芳夫君） そういう申し出は中々難しいと思いますよ。

○6番（内ヶ島祐一君） でも決める時に、そのように決めたんだからさ。

○年長委員（芳賀芳夫君） ですから、理由は先ほど申した通りでありまして、先ほど上村委員から欠席裁判にならない理由は何なのか。例えば今回、委員会が立ち上げになったのですが、実質稼働をするとすると8月なのか9月なのか1年になるのか、選考された方が決めるわけですけども、早急にという事にはならないかと私は感じております。議運の委員長が本当に入院をするのかどうかは分かりませんが、早急の取り組みにはならないかと思いますので。他、委員から何かございますか。

○2番（向井孝一君） 本当は芳賀さんが引き受けてくれたら一番良いのですが、気持ちとして固辞をしているのであれば、議運の委員長にお願いをしたら無難に行くのかなという感じがしますが。

○3番（山崎 仁君） 今ここでやっても決まらないわけだからさ、本会議やって案件だけ処理をして、特別委員会の設置で正副委員長の互選については後日にするだとか、どのような手法があるのか局長に調べてもらって、本会議だけ終わらせたらどうだろうか。

だからといって当たったからやめるだとか、選考委員会に任せるといって始まったものが、ここにきてやるのであれば先例になる。今度当たった人がやらないとなれば最後までそうなるからな。受ける人いなくなるよ。これは選考委員の中で十分に熟慮をして、副議長のポストの話も一部にはあったけれども、委員の立場で考えてもらおうと。そして皆で応援してやろうというのが委員会でのまとめとしての話だからね。これで受けないと

ると他に受ける人はいなくなるよ。議長はこれについて考えて、とりあえず本会議だけ終わらよう。

○年長委員（芳賀芳夫君） それでは今、山崎委員からお話がありましたが、控えている案件を協議した後に再度会議をするという事でよろしいですか。

（「はい」の声あり）

○年長委員（芳賀芳夫君） 以上で、本日の第1回特別委員会を閉会いたします。

閉会：16：16